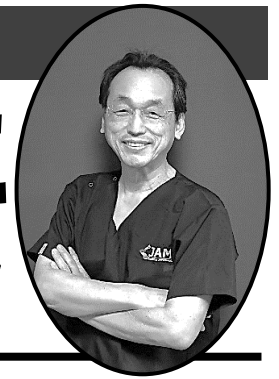


歯内療法を成功させるために 必要な知識と最新のテクニック



講師

日本大学松戸歯学部付属病院 マイクロスコープ特診外来

臨床教授 **辻本 恭久 先生**

牛久市・中澤歯科医院 院長 **中澤 弘貴 先生**

日時

2023年 7 月 30日(日) 13 時 ~ 16 時

13:00 ~ 14:30

辻本恭久先生のご講演

※15分ほどの休憩

14:45 ~ 15:45

中澤弘貴先生の臨床報告

15:45 ~ 16:00

ディスカッション & 質疑応答

座長

阿見町・ピアシティ歯科クリニック 院長 **寺澤 秀朗 先生**

場所

つくば国際会議場 4階 中会議室405 つくば市竹園2-20-3

※ 駐車場は、近隣の有料駐車場をご利用ください。なお、駐車料金は各自ご負担ください。

対象

歯科医師、歯科衛生士

定員

50人(先着申込順)

参加費

無料

※ 当該研究会は、後日に当会ホームページにてオンデマンド配信(会員限定)を予定しております。

【辻本 恭久 先生からのメッセージ】

患者さんの歯の痛みを消失させ、健全な口腔機能を営ませることが、われわれ歯科医師が患者さんの健康に貢献できる医療行為の一つです。歯髄の痛みを除去し歯の修復を行うステージ、すなわち、う蝕処置に伴う間接覆髄法や直接覆髄法ですが、これらは歯髄保存処置法として行われてきました。一方、以前は歯髄除去療法として扱われていた断髄法ですが、近年では一部断髄、全部断髄も、歯髄保存療法として扱われるようになり、教育もそのように変化しました。これには、以前までの目視下の治療と違った、マイクロスコープ下での診断ならびに治療が大いに役立っています。

また、MTAセメントの開発ももちろん関わっています。CBCTが開発され、NiTiロータリーファイルが開発・改良され、MTAセメントが開発されたことによって歯内療法の世界は大きく変わりましたし、成功率も上がりました。CBCTから得られる情報によって、患歯の歯根ならびに根管形態を把握することが出来るようになりました。Ni-Tiロータリーファイルを使用することで、従来ステンレススチールファイルの使用で引き起こされた、レジ(ステップ)やトランスポーテーション(根管変位)を抑制することが出来るようになりました。根管に穿孔部があってもMTAセメントで填塞することによって、セメント質様組織と歯根膜の回復をさせることが可能になりました。様々な器具・器材が開発され、根管内に破折してしまったファイルなどの除去も容易になりました。

これらの歯内療法、根管治療における最新の知識とテクニックを、臨床例(動画)を通じて先生方に解説させていただきます。

主催：一般社団法人茨城県保険医協会 TEL029-823-7930 FAX029-822-1341

参加申込書

切り取らずにFAX
029-822-1341へ
info@ibaho.jpでも可
茨城県保険医協会

医療機関名			
参加者名1	ご職種	<input type="checkbox"/>	歯科医師
		<input type="checkbox"/>	歯科衛生士
参加者名2	ご職種	<input type="checkbox"/>	歯科医師
		<input type="checkbox"/>	歯科衛生士

【辻本 恭久 先生 ご略歴】

1955年3月20日 生まれ（北海道、留萌市）
1973年 東邦大学付属東邦高校卒業
1979年 日本大学松戸歯学部卒業
1983年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了 歯学博士
1983年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 助手
1986年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 専任講師
1987～1989年 米国 Forsyth Dental Center 客員研究員
1995年 日本大学大学院松戸歯学研究科 合教員
2005～2007年 松本歯科大学第二歯科保存学講座 教授（非常勤）
2006年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 助教授
2007年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 准教授
2010年 日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 診療教授
2010～2018年 日本顕微鏡歯科学会 会長
2012～2017年 日本ウェルネス歯科衛生専門学校 校長
2018～2020年 日本大学松戸歯学部先端歯科治療学講座 教授
2019～2020年 日本大学大学院松戸歯学研究科 ○合教員
2020年～ 日本大学松戸歯学部付属病院マイクロスコープ特診外来 臨床教授
2021年～ 松本歯科大学 臨床教授

主な学会資格

日本歯科保存学会 専門医、指導医
日本歯内療学会 専門医、指導医
日本顕微鏡歯科学会 指導医
先端歯科画像研究会 CBCT 認定医

【中澤 弘貴 先生 主な学会資格 & 症例報告抄録】

日本大学松戸歯学部 歯内療法学講座 アカデミックアドバイザー(旧兼任講師)
茨城歯科専門学校 歯内療法学講師
日本歯内療学会 専門医
日本歯科保存学会 認定医
日本顕微鏡歯科学会 認定医

● 抄録

根管治療を成功に導くためには、根管系を適切に拡大形成・洗浄・充填することが重要です。しかし、根管系は複雑で、同歯種間でも個体差が大きいことは、周知の事実です。

上顎小臼歯のイスマス・フィン、上顎第一大臼歯近心頬側根の2根管性、上顎第二大臼歯の歯根癒合、下顎第一大臼歯の4根管性、下顎第二大臼歯の槌状根などに代表されるそれらの形態についても予め十分に理解することが、根管治療の成功率の向上に寄与すると考えられます。根管の三次元的な構造を理解せずに治療を行うと、根管の未探索、器具破折、穿孔などの偶発症が発生する可能性があるため、知識と技術の習得が重要であると考えます。

● 注意すべき歯種の解剖学的形態と症例

日本人の各歯種における歯根および根管の解剖学的形態を検討した過去の論文では、対象としてヒト抜去歯を用いている事が多く、人種・年齢・性差・抜歯の原因などの情報が乏しい場合があります。今回は、CTを使用した各歯種における報告をもとに、それぞれの注意すべき解剖学的特徴と実際の症例を未熟な私ですが治療の一助となれば幸いです。発表させていただきます。宜しくお願いいたします。